

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022~2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン
ロータリー

会長 高 畠 裕
幹事 車 田 裕 介



2022-23年度国際ロータリーテーマ

第1746回例会

令和5年2月9日(18:30~19:30)

○ソング

●四つのテスト

○ビジター

浪川・スウィートラーナ様、藤沢・インナ様

○スマイルBOX

●高畠裕会長（先週の新年会には多くの参加をいただきありがとうございました。本日は国際奉仕委員会担当の例会で、委員会の皆様ありがとうございました。ゲストのスウィートラーナ様、インナ様、お忙しい中ありがとうございました。）

●金田昇会員（浪川・スウィートラーナさん、お話ありがとうございました。世界中が平和になりますよう。）

●宮本多可夫会員（国際奉仕委員会担当の例会でスウィートラーナ様のゲストを迎え、有意義な話しが聞けました。ゲストのお二人、本当にありがとうございました。）

●関谷亮一会員（浪川・スウィートラーナ様、藤沢・インナ様、ようこそおいでくださいました。ウクライナの一日も早い平和が訪れます様お祈りいたします。）

●永野文雄会員（ゲスト卓話ありがとうございました。諸橋国際奉仕委員長、準備大変でしたね。有意義な内容でした。）

2022-2023年度 第8回理事会

日時 令和5年2月9日(木)

【審議事項】

1 楽器寄贈について：社会奉仕委員会

→可決・承認

2 新入会員承認の件

→本日より提示

3 その他：ウクライナの方々への支援を行ってはどうか？

→国際奉仕委員会予算を使って、国際奉仕委員会より議案として上程する

▶第1746回例会出席状況 (R5年2月9日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	65名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	1名
Ⓕ ②の出席者数	10名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓕ (メイクアップ補填後の出席会員数)	37名
Ⓗ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓕ)	61
Ⓘ = Ⓖ / Ⓗ × 100 (例会出席率)	60.6%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30~19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5(白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間

高島裕会長



皆さん、こんばんは。先週は、クラブの新年会に多くの会員の方に参加をいただきましたこと、本当に心より感謝申し上げます。また、白河市長がおいでになって講話をいただきましたが、市長も到着と同時に紹介をされてすぐにお話をし、慌てて帰ってしまったため、その後飲み会でちょっと飲んでしまったということで、こちらお祝いを渡すのを忘れましたということで、後日改めて市長のほうからお祝いのほう届いてますので、ご報告をさせていただきますと思います。本当にありがとうございます。それで今日は国際奉仕委員会担当ということで、スウィートラーナさんとインナさん、ようこそおいでくださいました。ドープラホバーチョラというんですかね。こんばんはと言うんですか。ちょっと勉強したんですけど。ということで、今日はありがとうございます。なんかよくわからないですけど、ちょっと空気を読まないところがすごいですよね。国際色豊かということで、ありがとうございます。日本語が上手だということで、今日は諸橋国際奉仕委員長はじめ委員会の皆さん、本当に今日こういった場を作ってくださいありがとうございます。我々もウクライナのことをもっと深く知って、そして皆さんと仲良くやっていけるように頑張っていきたいなと思ってます。今日はよろしくお祈りしたいと思います。今、テレビではトルコの大地震がありまして、今現在で1万5千人くらいの方が被害に遭われてるということで、日本では東日本大震災で1万8千人の方が亡くなったりということでしたが、いかに今回の地震がこの時点で1万5千人というお話で、いかに大変なものかということがわかると思います。阪神大震災の約20倍のエネルギーだったというふうに言われております。テレビでご覧の方も沢山いらっしゃると思いますが、建物がほぼ倒壊してしまい、瓦礫の下に子供や女性、高齢という方が沢山埋まっているような状態で、今救出、世界各国から向かってるということで。日本からも当然そのような形で向かってるわけですが、一刻も早く一人でも多くの方が助かる事を願っております。そんな中、隣のシリアでは宗教やら民族の対立によって内戦が行われており、なかなか支援物資や援助金が届かないというようなことが懸念されております。一刻も早くそういった戦いをする場じゃなく、自然災害に

立ち向かって一人でも多くの方が救出されることをお祈りしたいと思います。後程、多分国際ロータリーのほうからもそういった部分で基金をお願いするというような案内が来るとは思いますが、その際皆さん本当に我々が困った時に助けていただいておりますので、皆さんにおかれましてもそういった募金のお願いがありましたら、皆さんのお気持ちを添えていただければなというふうに感じております。また、明後日にはだるま市が予定されておまして、通常のだるま市開催ということですが、天気予報で明日の天気はちょっと怪しいということで、建設関係の方、除雪などで出る機会が増えるのかなと思っております。兼子社長も多分国道のほうだと思いますが、是非国道出る前に是非うちの駐車場に一度試しに除雪していただいて、それから国道に出て安全な道路を維持していただければなというふうに思っております。どうぞよろしくお祈りします。今日はお二方を交えてウクライナの状況とか、あるいはウクライナ生活を知るちょうど良い機会かなと思っております。本当に一刻も早くロシアのウクライナに対する侵攻が終わることを我々は願っておるばかりです。今、争いを起こしても何にも良いこと誰にもありませんので、一日も早くそういった一方的な戦争が終わることを我々は期待しております。そういう事も含めまして、今日はお二方を含めていろんなお話というか、いろんな意見が聞けると思っています。皆さんも今日の研修を糧にいろいろ頭に描いていただいて、世界が平和であること、そして我々ロータリーがすべきことが改めて感じる部分があると思いますので、どうぞ今日の国際奉仕委員会が皆様にとって有益なものになることを期待しながら、今日の例会楽しみにしてまいりたいと思います。お二方とも今日はよろしくお祈りします。

■幹事報告

車田裕介幹事

- 白河青年会議所 第65代理事長 上田雄介：御礼
- ガバナー 佐藤正道：計報
- ガバナー 佐藤正道、会員増強拡大・DEI委員会委員長 福耕透：国際ロータリー第2530地区委員会 DEI委員会セミナー（「DEIなロータリー」）開催のご案内
- ロータリーの友事務所代表理事 高野孫左衛門：2023-24年版ロータリー手帳のお買い上げのお願い
- 第2580地区ガバナー事務所内名誉会長 田中毅：第21回全国囲碁大会のご案内
- メルボルン国際大会推進コーディネーター 田中賢三：メルボルン国際大会のご案内と登録のお願い

■本日のプログラム

国際奉仕委員会担当例会

○国際奉仕委員会

諸橋和典委員長



皆さん、こんばんは。国際奉仕委員会委員長の諸橋です。今日はよろしくお願いたします。2月はロータリーの月間として平和の構築と紛争予防月間となっております。ロシアがウクライナを侵攻して、ちょうど去年の2月24日侵攻したということではほぼ一年となります。その間、いろんな情報とか来ますし、ウクライナの情勢によっていろんなものが入ってこなかったりとか、世界経済がガタガタになっているというような感じはあります。ただ、それぞれの政治的な情報というのは聞けるんですけども、一般の人たちがどういった生活をしてるかとか、ウクライナってどんな所だろうなということは実は知らなかったりします。ちょうど知り合いの方がいまして、ウクライナに。白河在住のウクライナの方がいらっしゃるといことで、今日お呼びしてお話を聞きたいと思ひます。お二人は本当に一般の方なので、こういった所で喋るといこともあまり慣れてはないので、いろいろ皆さんから質問を聞きながらお応えするような形を取ってきたいと思ひますので、よろしくお願いたします。先にちょっとウクライナの説明をしていきたいと思ひます。ちょっと小さいですけども、赤い所は日本ですね。青い所がウクライナです。先程あった、地震があったトルコと黒海を挟んで北側になります。ほとんど東欧ポーランドと国境をなしてまして、ほぼヨーロッパ側の国であります。日本との時差が7時間なので、ちょうど今ウクライナはお昼くらいだと思ひます。面積は日本の1.6倍くらいです。人口は4千2百万人程度。首都がキーウ。キーウの北側が旧ソ連で、原発事故があったチェルノブイリという所です。チェルノブイリは今ウクライナになっております。そういったところで、同じ原発事故があったという事で、福島とは何となく親近感があつたり、お互い技術的なやり取りができたりするんじゃないかなというようなところも考えられます。これがウクライナの簡単な地図になっています。こちらの赤い所が東側ですね。リヴィウと書いてある所が西のほうです。スウィートラーナさんは東のドニプロの近くの、ドニプロより東側ですね。東側のパブログラードという所が出身地です。ルワンシク。結構、一番戦場が。町はない。というような状況です。主に東側が、どちらかといふと激しい戦場が行われてる所だといふふうにお伺ひしてあります。なので、こういったウクライナの所を身

近といふか、実際戦争が起きててちょっと悲惨な状況があつて、やっぱり平和を保たなきゃいけないといふところを改めて感じていきたいと思ひますので、二人の話を聞いてきたいと思ひます。

○浪川・スウィートラーナ様



皆さん、こんばんは。今日はよろしくお願いたします。本当にこういう形になるとちょっとわかんなかったんで、スピーチは全然準備してなかったんですけど。自分の事だけ教える事できるんですけど。さっき言ったとおり私の出身はミサイルは結構近いんですけど、大体90キロメートル離れている、今のところですね。私の生まれた町は実際今のところは静かといつても、毎日町の中で音鳴る。3~4回くらいは絶対鳴るので、この音聞くだけで本当に怖くて不安になるんですけど。その時は全部お店はクローズしますので、普通のスーパーも薬屋さんでもクローズになりますね。そして、去年は夏頃くらいまでは本当に食料品と薬、一番必要な薬なくて人々結構困ってました。ただ、私、実際去年の12月にはウクライナ行って来て、私の家族のお父さんは体調崩して入院しまして、それで会いに行ったので。その時、普通のスーパーでも食料品はいろんな種類はあつてほつとしました。薬、私のお母さんは糖尿病でインスリンの薬注射しなきゃいけないので凄く心配してたんだけど、でも問題なくインスリンの薬は手に入ってた。あと特に今のところ私の町、安全って言えないんだけど、本当にそのまま続くともしかして私の町にもひどい目にあうかもしれないので、その気持ちで本当に不安になるし、眠れないくらいのことになります。



Q：学校とか教育がどうなってるか。

A：今のところ私の町なんだけど、ほとんどどこでもウクライナで今は学校はやってなくて、みんな子供たち家の中でパソコン使ってズームでオンライン勉強してるんですけど。それはもうずっと続けてるので、慣れてないけど仕方がない、それやるしかないから、安全のため。子供の安全のため、そうするしかないんだけど。

Q：交通状況というか、移動手段というのは。鉄道が使えないとか。

A：今は一般人は普通の鉄道は乗れないので、ほとんど移動するためには、バス、車、使ってる。鉄道はところどころミサイル落ちたりして壊れてるし、私の町中で二か所でミサイルあって、多分それは狙ってただろうけど。駅、電車の駅の所で当たって、それは今から大体半年くらい前ですけど、今のとこ直してる。ただ、どうしても鉄道は危ない。みんなバスと普通の車使ってるんですけど。私も日本に戻る為には、そのドニプロという町の大きいバスに乗って26時間かかってワルシャワまで、ポーランドまで行ったのでものすごく疲れたですね。もう死にそうになって、ワルシャワに着いてあと飛行機に乗ってまた15時間でフライトで東京に着いた、ほっとした。そういう今、みんなこういう移動する。鉄道とにかく危ないです。

○諸橋和典委員会

浪川さんがいらっしゃる出身地からポーランドまで、国境まで東京から九州くらいの距離がここをずっとバスで行くという事なので、そちらの時間がかかるという事です。鉄道は主に軍事的な利用。

A：そうですね。今のところはヨーロッパからいろんな物を、灯油、ガソリン、いろんな武器の為には使ってるんですけど、一般的にはとてもできないです。

Q：停電が多い。電気が来ない。

A：大体去年の12月からミサイルは本当に狙ってる所、電気が切れてる。丸ごと一日じゃないけど、ただ4時間くらいは電気あっても、4時間はないです。その後また4時間あってもない。ただ、厳しい所はもっと長く長く来てると思うけど、インナさんのお母さんは実際は今は避難してるので、ちょうど私と同じ県、私

と同じ町の近くの村、小さい所だけどそっちに避難してるんですけど、そっちはもっと電気のこと大変、話聞くと本当に朝から夕方まで電気がない時もあるし、今はどうですか。同じ。変わってないですね。私の実家もうちょっと大きい町だから、何とか4時間4時間来てるんだけど、電気ないと携帯電話も繋がらづらいし、電波悪くなるし、本当に連絡取れないと不安ですごく心配になりますね。

Q：あと避難なんですけど、国外に避難してる方もいらっしゃるということなんですが、男性は避難できないんですか。

A：今は禁止されてますね。最初は18歳から60歳まで男性は禁止されてたんだけど、今のとこなんかもう17歳と16歳はなんか出られない状態になってるんだけど、そう、厳しい。でも、男たち、ちゃんと兵隊のために一生懸命頑張ってる。

Q：藤沢・インナさんは国境の東側に近い所に住まわれてるんですよね。

○藤沢・インナ様



A：私、そう。ちょうど一番大変な2月、戦争になってから私の町も一番全部なくなりました。うちのお母さんは一週間くらい地下にずっとずっといて、もう我慢できなくてやっぱりスイートラーナさんの所の近い小さい村、親戚と一緒に、ここまで何とか逃げた。今は私の町何にも、何にもないです。もう、あそこ森も何にも、もう何にも本当に何もない。もう石だらけ、土だらけ。あそこの辺全部駄目です。だから、とても苦しいです。でも、みんな生きてる。とにかく、もうこの町は直すのなんかは不可能だと思いますね。

Q：何か写真を見せてほしいと伝えたら、写真撮ることも禁止されてる。写真を撮ったりとか、ビデオを撮ったりとか厳しく禁止されてて、そういったもの見つかるとどこか捨てられるということですか。

A：本当に今回ウクライナに行った時は、写真も1枚しか。私のお父さんは、実際父亡くなってお葬式の写真しかないんですけど。普通の景色、何か大事な所に入ると本当に禁止されてるから、今回は全然何も写真は撮ってなくて。

Q：あと、浪川さんはウクライナの新体操の通訳とかがされてて、今高崎に来ている。その話を。

A：去年の10月の時は、群馬県の高崎財団からお願い来たんですけど、突然。高崎に新体操選手、ウクライナ人はトレーニングのため練習のため。あと、東京のイオンカップ。毎年やってるイオンカップのため来た時は、私ちょっとお手伝いしてたんですけど。ちょうど今のところも来てるので、僅か二日で休みとって白河に戻ったんだけど。また明日向こうに行くので。今度、シルクカップ。高崎の中で、実際の大会の中でウクライナの新体操選手は出るためには、また練習のため来てるんだけど、その通訳と、あとは普通の生活の手伝いしてるので、本当に子供たちキーウの中で練習することはなかなかできなくて。電気切れたり、温かさなくて日本に来てるので、本当に子供たちのことを見ると物凄く頑張ってるねって、もうみんな顔はすごく大人っぽくなってきたって、私、前10月に会った時は、今また会えて、だんだん子供たちは本当に顔は変わっていくし、厳しい世界の中で成長してるんだなって私思ってる。それで、今はちょうどこのナショナルチーム。新体操選手たちには、スポンサー探ししてるんですけど、子供たちのスポーツウェアとか、今までニューバランスなんかメーカー使ってたんだけど、だんだんなんか離れていって、今のところはスポンサー探してるので。もちろん、スポーツの道具、特別の新体操のリボンとかフラフープとか、ボールはちゃんとスポーツメーカーじゃなければ難しいんだけど、普通のスポーツウェアとか、Tシャツ、長いシャツとかジャンパーとかいろいろ探してるんだけど。その皆様の中でご協力いただければありがたいと思っています。

～～ビデオ上映～～

Q：一番問題というか我々遠くから聞いていて心配だったのは暖房ということなんですね。ウクライナは冬は非常に寒いという事を聞いていて電気がやられて、暖房どうなるんだというような事なんです。実情はどんな感じなんですかね。先程、4時間くらいですね。電気自体がそういう状態だとはわかりましたけど、それ以外に日本でいえば暖房は灯油を使ったりいろいろあるんですけど、どういう状況かわからないけど教えていただければ。

A：ほとんどマンション。大きいビルとか見ると、向

こうではスチームヒーターというシステムを使ってるので、そのシステムは普段は24時間は温かくしてくれてるヒーターなんだけど、電気止めちゃうとだんだん冷めちゃう、簡単に言うと。だんだん熱いからぬるい冷たくなるんだけど、その4時間とか6時間の間、電気止める間にだんだん冷めちゃう。その後また電気付いたら、少しづつ温かくなるんだけど、今年はまだそこまでは厳しい寒さはないみたいで、まだ何とか。ただやはり家の中で寒い。そして、普通の自分の家に住んでる人だと、そっちは皆それぞれのシステム持ってるので、誰かガス使って温めてるし、石炭も使ったりする所もある。あと、ペチカ。まあ、薪を使う所もあるんだけど、逆にこっちのほうがかちょっと助かる。ガスとか電気関係なく家温めるとちょっと逆にね、ラッキーというんだけど。

Q：戦争のこととかじゃなくて、普段ウクライナの方のお料理で日本でも作れる料理。ウクライナ料理っていうのはどういうのが。例えば、有名なスープがあるとか、食べるものとか。

A：私、ボルシチたまに作るんですけど、熱いスープでほとんど寒い時期に作るんだけど、ピロシキとかは割となかなか、ちょっと手かかるから本当に暇あったらやるんだけど。スープは本当に美味しく、寒い時期に食べると温まるし栄養たっぷりでお腹にもいいし、とても美味しい料理だよ。

Q：今、インナさんは何か作るのをお仕事にしてるって言ってましたけども、どちらに行かれるんですか。

A：私、10年前から西郷村のテレモックというお店でそのロシアの料理を作ったりとか。もうロシアじゃない。ウクライナ。もうロシア嫌だ。その時まだロシアの料理だったけど、だからその時はそのボルシチ作ったり、ピロシキ作ったりとかいろいろ。

Q：西郷にお店ある？

A：今はない。今は移送販売車で動物王国で、場所を借りてやっています。ただ、冬はちょっと休みです。3月、雪なければね。3月から。11月いっぱいまで、その移動販売車の仕事、料理の仕事やっています。だからボルシチも、あと今までずっとあそこ、だるま市もずっと行ってちゃんとやってて、でも今年はちょっと一人だから大変だし、だから今年はやれない。あとも

うずっと行ってた、だるま市にも。今はちょっと気持ちもダウンしてるし。だから、でも何とか頑張ります。ありがとうございます。

○諸橋和典委員長

やっぱり、お互いを理解して話をしたりすることがロータリーだと言ってます。平和構築だとか紛争予防というところに繋がってくるんだと思います。今までちょっと遠い所だな、違う所で起きてる戦争だなというふうなところですけれども、身近というかきちんと受け止めるということも大切だと思います。それと、もう一点ちょっとあって、さっき出たポーランドの境のリヴィウロータリークラブの方とちょっとフェイスブックで繋がって、今日オンラインでもらおうかと思ったんですけども、かなり技術的な問題と英語力の問題があって諦めたんですが、昨日ズームでやり取りをしてビデオメッセージを貰いましたので、ちょっと流したいと思います。実はズームの画面見てもらうとわかるんですけども、上に女性が出てるんですが、こちらのユリアさん。多分、聞こえてるかと思えますけれど、ちょっとビデオ流したいと思えます。



～～ビデオ上映～～

○諸橋和典委員長

すいません。ちょっと音声流れないんですけども、英語で喋ってます。ほぼ、90パーセントわからないんですけども。今はITがあって、ポケットトークとかそういったのでどうにか聞き取りをしまして。連携することが大切だというような事を言っています。それで、お金は国際ロータリーだとかそういった所から来てたりもするし、できれば直接送ってもらえると助かるというような事です。やっぱり、電気が非常に不自由してるので、2,000ユーロくらいで発電機が買えたり、そういった事があるというようなことです。お互い連携して小さな成功を積み重ねることによって、相互理解が膨らんで良い方向に行くんじゃないか。あと、人的支援も必要なんだけど日本からは来れないだろうから、専門的な知識を持ってる人、お医者さんとかエンジニアだとか、そういった方とオンラインであっても繋がれば、いろんな成果がお互い出

るんじゃないかというようなことです。あと、福島は原発事故に対する知識とかそういったものがあるだろうから、そういったものもお互いやり取りしていけばいいんじゃないかなということです。なので、そういった事をいろいろ連携していきましょうというようなことを多分言っていました。非常に30分くらい話してくれてたんですけども、これから時間をかけてできれば要約していきたいと思えますし、英語の得意な方がいらっしゃいましたら、ビデオを回しますのご協力よろしく願いいたします。それでは、以上で国際奉仕委員会の担当例会を終わりたいと思えます。ありがとうございます。

○高島裕会長

お二人の方、本当に今日はありがとうございました。なかなかね、テレビとかでは映像でしか一部しか映らないので、今お二人のお話した内容は詳しくはわからなかったのですが、多分皆さんよくわかっていただいたと思えます。インナさんは動画を流した途端、ちょっと涙が出ちゃうくらい、そのくらい切ない心が痛い事だと思います。私のほうから一つ質問というか聞きたいんですけど、今ロシアから侵攻されてこんなことになってしまいましたけど、もしこの戦いが終わってという時にウクライナの方はロシアの国民の方を許すことができるのか、そういう気持ちはやっぱりおありなのですか、どうなんですか。その国民の皆さんが悪いわけではないんだと思うんですね。政治的な何か、上のほうのということでこういう事になってしまったと思うんですけど。これはウクライナの国民の方はロシアの国民の方を許すことができるのかどうかといった時、これは実際どんなふうにお二人は思えますか。難しいですか。これはね。

A：いまのところ、何でみんながあそこに何にもストップしない。何で。私もわからない。でも、私も心は、許す気持ちはない。